

区分別科目	創部ドレーン管理関連		時間数 (法定)	6 (5)
特定行為名	(A) 創部ドレーンの抜去			
担当指導者	久保田 良浩（医師）長山 聡（医師）日並 淳介（医師）橋本 恭一（医師）我如古 理規（医師）中村 真司（医師）伊東 真哉（医師）仲井 理（医師）西井 洋一（医師）福井 道彦（医師）大重 日出男（歯科医師）江戸 俊太（歯科医師）水元 大貴（歯科医師）三好 梨恵（看護師）			
学ぶべき事項	（共通）創部ドレーン管理の基礎知識	1. 創部ドレナージに関する局所解剖 2. 創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 創部ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 創部ドレナージの目的 5. 創部ドレナージの適応と禁忌 6. 創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	(A) 創部ドレーンの抜去	1. 創部ドレーンの抜去の適応と禁忌 2. 創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 創部ドレーンの抜去の方法と手技		
研修概要	（共通）創部ドレーン管理の基礎知識	創部ドレーンの必要性やその特徴を理解し、創部ドレーンの抜去を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 創部ドレーンの抜去	医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、挿入部の状態、発熱の有無等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、創部に挿入・留置されている状況又は患者の状態が長期にわたって管理され、安定している状況において、創部へ挿入・留置されているドレーンを抜去する。抜去部は、開放または閉塞性ドレッシング剤の貼布を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、創部ドレーンの抜去ができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：e ラーニングの受講及び講義確認テスト			
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	試験：e ラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義（5 時間）	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	実習	実習は指導者のもと、宇治徳洲会病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。		
	試験（1 時間）	科目修了試験（筆記試験） 1 時間 （共通）創部ドレーン管理の基礎知識 0.5 時間 （A）創部ドレーンの抜去 0.5 時間		

授業計画							
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項		担当指導者	
創部ドレーン管理関連	第 1 回	講義	放送	(共通) 創部ドレーン管理の基礎知識	創部ドレナージに関する局所解剖	久保田 良浩 長山 聡 日並 淳介 橋本 恭一 我如古 理規	
	創部ドレナージの適応と禁忌						
	(A) 創部ドレーンの抜去			創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）	西井 洋一 福井 道彦 大重 日出男		
				創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、創部ドレナージの目的			江戸 俊太 水元 大貴 三好 梨恵
				創部ドレーンの抜去の適応と禁忌			
	実習	面接	創部ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	江門 真哉 仲井 理 西井 洋一 福井 道彦 大重 日出男			
			創部ドレーンの抜去の方法と手技		江門 俊太 水元 大貴 三好 梨恵		
			創部ドレーンの抜去の方法と手技（見学） ※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う			江門 俊太 水元 大貴 三好 梨恵	
			創部ドレーンの抜去の方法と手技				江門 俊太 水元 大貴 三好 梨恵
第 6 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）				

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。